



虹の駅から星の駅までの登山道には、旧天上寺や各時代の遺構が深い森の中に点在しています。歴史と文化を今に伝えるマヤ遺跡をたどる散歩道です。

# THE MAYA RUINS 摩耶遺跡



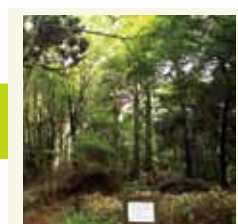
**12 旧天上寺境内**  
山肌に張り付くような石垣群の威容から往時の人々の信仰の力が感じられる。空に吸い込まれるような300余段の石段を登ると神戸のマチュピチュと呼ばれる絶景の境内へ。



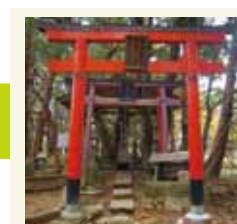
**13 八十八カ所巡り跡**  
掬星台へ向かう道は旧天上寺の裏で二つに分かれ、一周すると八十八カ所巡りができた。かつての巡礼の小径沿いには番号が彫られた石室群が点在している。



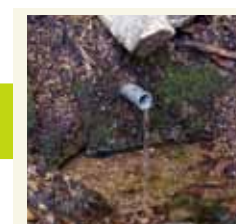
**14 赤松円心公碑**  
1333年(元弘3)鎌倉幕府討伐の兵を挙げた赤松円心則村は、摂津へと進出して摩耶山に山城を築き、六波羅探題勢を迎え撃った。現在は堀切や堅堀の跡が山中に残る。



**15 奥の院跡**  
貴重な原生林が広がり、ミヤコザサの群生や、ツガ、アカガシ、スギの古木に囲まれ荘厳な空気あたりを包む。奥の院は修験道の行場でもあり神聖な場所とされた。



**16 天狗岩大神**  
巨石「天狗岩」は磐座と呼ばれ神々が降り立つ場所として信仰を集めた。諸国を漫遊しながら各地で狛犬や大蛇を退治した岩見重太郎の狛犬退治伝説が伝わる。



**17 弘法清水**  
摩耶山天上寺に弘法大師が来られた際、一息ついたと言われる古い湧き水は龍神水と呼ばれ、古来より生命力を高め、困難に打ち勝つ氣力を授かると信じられている。



**11 旧摩耶の大杉**  
幹周り8m、摩耶山の変遷を見守ってきた摩耶の大杉。樹齢1000年とも言われ、昭和51年の旧天上寺の火災から徐々に弱り、枯れていったが、圧倒的な存在感は健在。



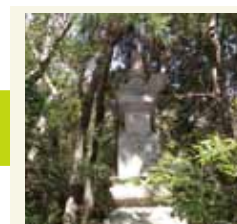
**10 天上寺塔頭群跡**  
虹の駅から旧天上寺までの参道には蓮華院、王蔵院、大乘院などの塔頭があった。斜面に張り出す懸け造りで、今でも城のような基壇が残り、険しい山岳寺院の面影が残る。



**9 仁王門**  
マヤ遺跡群でも最も存在感がある旧天上寺の仁王門は江戸中期～後期の建築。現在は損傷がひどく通り抜け不可(迂回路あり)。仁王像は現天上寺の金堂内に安置。



**8 アメヤ跡**  
仁王門の下にあった茶店は「上のアメヤ」と呼ばれた。現在も「アメヤ」と書かれたコンクリート製の水槽が残っている。この水槽に湧き水をためラムネや果物を冷やしていた。



**7 宝篋印塔**  
旧天上寺参道に残るマヤ遺跡。通称「ほうけんとう」と呼ばれ元々はお経を納める塔として建立された。また上野道には天上寺までの距離を示した古い町石も多数残っている。



**6 峠茶屋跡**  
上野道と虹の駅からの道が出会う峠にあった茶店では、おぼぎ、ぜんざいなどの他に「ネコのフン」という菓子が名物だった。近くには阿福(お福)茶屋という茶店もあった。



**1 ケーブル虹の駅舎**  
アーチ窓やモダンな照明器具など、1925年(大正14)当時はシンプルながらも洒落たデザインの駅舎として登場、改装を重ねながら今でも現役で使用されている。



**2 旧摩耶観光ホテル**  
1929年(昭和4)に摩耶鋼索鉄道の福利厚生施設「摩耶倶楽部」として開業。戦後は摩耶観光ホテルとして営業。船の艦橋のような威容から「軍艦ホテル」と呼ばれた。(立入不可)



**3 千万弗展望台跡**  
1958年(昭和33)に木造の展望台が完成、「千万弗展望台」と名付けられた。昭和45年にコンクリート製の2代目が完成したが、その後撤去。今でも迫力ある眺望が望める。



**4 山上茶店群跡**  
旧天上寺の門前駅だった虹の駅周辺には5~6軒のうどん、焼き芋、回転焼きなどを売る茶店や射的場などが数軒あった。天上寺移転後はアスレチック施設があった。



**5 摩耶花壇跡**  
摩耶ケーブル開業時に宿泊施設として開業、後に療養所となった。建設当時は地下1階、地上2階の瀟洒な洋館で、敷地内の小高い丘には釜風呂(サウナ)もあった。